

2023 年度 大谷大学文藝コンテスト
審査員からのメッセージ（エッセイ・小説部門）

一般社団法人言の葉協会 専務理事 宮脇一徳

エッセイ部門 196 点、小説部門 43 点、それぞれ、昨年は 93 点、40 点、少しずつ参加応募は増えてきた。昨年はコロナ禍の影響かと勝手に分析し思い込んでいました。今回の応募をみてまだまだ「大谷大学文藝コンテスト」への高校生の関心・思いは力強いと思って少し安心しました。本当にありがとう。もっともっと、たくさんの応募を楽しみに待っております。今回も、エッセイ、小説それぞれ魅力的な作品に巡り会いました。

これまでに出会ったエッセイは、これは少し違う、無理があるなど思う作品もありました。コンテストの歴史を重ねる中で、そんな感想は消え、それぞれエッセイは人生を刻み、さりげなく綴った珠玉の作品に出会うことができました。高校生の作品に力強さと、拘り、強い思いが読み取れる作品が増えてきました。小説も同じで、人生を重ね、たくさんの経験が積み上げられた魅力的な作品が並びました。審査をする喜びと楽しさに浸り、審査の難しさに苦労し、悩むことが多くなりました。個性的で、魅力的、想像力・創造力にあふれた作品がますます増えてきました。

読むことの楽しさ、判断に悩ましく、ステキな作品に多数、出会いました。作品に順位・点数をつけることがとても難しくなっています。それだけ応募作品のレベルは歳とともに高くなってきました。書き上げられた作品を推敲し、表現のひとつひとつを拘りつつ、たどりついた作品はどれも、キラキラ光る楽しい作品になりました。